

研究会・地域部会の報告書

提出者：中川 博之 / 提出日：2020.08.19

研究会・地域部会名	関西地域部会
代表者(所属機関名)	中川 博之 (住友化学株式会社)
タイトル(イベント名)	第28回バイオメディカル研究会 「医療経済と健康寿命のインフォマティクス」
日時	2020年8月18日 13:30~16:45
場所	ウェビナー (zoom)
共催団体	公益財団法人都市活力研究所
後援団体	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、 NPO法人バイオグリッドセンター関西
参加人数	登録100名 (JSBi 会員7名、賛助会員14名(8組織))、瞬間最大聴講79名
<p>目的：健康寿命の延伸は、超高齢化と社会保障費増大、さらには労働力減少という課題の解決に繋がるのではないかと期待される。そこで、健康寿命延伸に関わる課題について取り上げ、多様な立場からの取り組みを紹介いただき、インフォマティクスにおける課題について考える。</p>	
<p>概要：下記の4演題を講演頂いた。詳細なプログラムは、以下のリンク参照 (https://www.jsbi.org/news/workshops/20200818/)。</p> <p><講演> (13:30-16:45)</p> <p>講演1 「未来医療のための医療情報プラットフォームのコンセプト」 松村 泰志 先生 (大阪大学大学院医学研究科)</p> <p>講演2 「健康寿命の延伸を目指して –メタボ・フレイル–」 阿部 圭一 先生 (国立健康・栄養研究所)</p> <p>講演3 「天然物、食用・薬用生物、漢方、薬膳、食品データベース： KNapSACk でデータマイニング」 金谷 重彦 先生 (奈良先端科学技術大学院大学)</p> <p>講演4 「医療ビッグデータ活用と人材育成への取り組み」 鎌田 真由美 先生 (京都大学大学院医学研究科)</p>	

成果および感想：

医療情報を活用するためのプラットフォーム構築の取り組み、健康寿命延伸のためのフレイルの概念浸透の重要性、食用天然物等のメタボロミクスを中心としたデータベース構築の取り組み、医用ビッグデータの活用事例と人材育成等、およびこれらに関する課題が整理できた。盛り沢山の内容であり、ウェビナーで資料が手元で見えることから参加者からは非常に好評であった。質問を zoom の Q&A 機能を用いて書き込んで頂いたためか、内容が整理された良い質問ばかりであり、司会としても助かった。

当初 4 月 10 日の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて延期し、最終的にはウェビナー方式に変更して実施した。登録開始後、わずか数日で登録上限に達したが、北海道から沖縄まで幅広く、これまでは参加が難しかった方にも参加頂ける機会を提供できたと考えられる。JSBi の個人会員および賛助会員の登録は、把握できている範囲で 21 名であった。一方、実際の聴講者は瞬間最大で 79 名であった。開催中に増減を繰り返していたことから、一部分のみを聴講した方が居られると考えられ、参加しなかった人数の把握ができていない。初のウェビナー開催による不手際も多々あったが、今回の経験を活かしながら、活動を止めずにバイオインフォマティクスを中心とした異分野融合を図っていきたい。

<以上は HP に公開されますので、それに留意して記述をお願いします。以下は非公開となります>

本制度に関する学会への要望、コメント（自由記述）

（必要な場合はページを追加可）